

1. 日 時 : 令和7年9月29日 (月) 17:50 ~ 18:15
2. 場 所 : 特別会議室(管理棟3階)
3. 出席者 : 古宮委員長、藤本委員、村上委員(web参加)、山上委員、清水委員、並川委員、常風委員、中野委員(web参加)、谷委員、中原委員(web参加)、松浦委員(web参加)、島本委員、金子委員(web参加)、坂口委員、池澤委員
4. 陪席者 : 総務企画課 研究推進室 江口、早尻、森田、山本
5. 議 事 : 臨床研究等利益相反マネジメント委員会に諮った申請において、COIに問題が無いことが確認された。

新規申請**(1) 顕微鏡下精索静脈瘤結紮術におけるインドシアニンググリーンの実用性の検討****(2025-095)****研究責任者: 泌尿器科学 助教 波越 朋也**

研究責任者の泌尿器科学 助教 波越 朋也から、関係資料に基づき、申請課題について説明が行われ、質疑・応答の後、審議の結果、別紙のとおり指摘があり、継続審査となった。

迅速申請**(1) 心筋症の病因と病態形成機構の究明に関する研究****(17-26)****研究者: 老年病・循環器内科学 教授 北岡 裕章**

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

(2) 神経・筋チャネル病の遺伝子解析**(30-93)****研究者: 脳神経内科学 講師 大崎 康史**

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

(3) 20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究**(2021-12)****研究者: 小児思春期医学 准教授 久川 浩章**

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

(4) YUBAメソッドを用いた発声訓練による嚥下機能改善効果の検証**(2023-55)****研究者: 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 特任教授 兵頭 政光**

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

(5) 癒着性小腸閉塞発症と高残渣食の関係性の検証**(2023-81)****研究者: 臨床疫学 大学院生 工藤 仁隆**

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

(6) 接触式の参照眼圧計と非接触式の試験用眼圧計の許容誤差試験(高眼圧群)**(2024-117)****研究者: 眼科学 助教 中平 麻美**

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

- (7) シングルセルレベルでの空間プロテオミクス解析による上部消化管癌の多様性の解明および免疫治療効果予測マーカーの同定

(2025-37)

研究者: 腫瘍内科学 教授 佐竹 悠良

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

- (8) 膀胱癌患者におけるアラグリオ使用によるPDD-TURBTの有効性および安全性の検討

(2025-52)

研究者: 泌尿器科学 助教 福原 秀雄

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

- (9) 5-アミノレブリン酸(5-ALA)を用いた泌尿器癌・消化器癌に対する癌リスク評価法の解析

(2025-73)

研究者: 泌尿器科学 教授 井上 啓史

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

- (10) 日本人の筋骨格系健康状態の診断と治療に関する研究

(2025-74)

研究者: 次世代医療創造センター 特任教授 花崎 和弘

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

- (11) 新生児マススクリーニングで発見される先天代謝異常症および鑑別を要する関連疾患群の生化学的・酵素学的診断と重症度・発症リスク評価に関する研究

(2025-76)

研究者: 小児思春期医学 医員 篠田 知周

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

- (12) 外来治療を継続する子育て中のAYA世代女性がんサバイバーが生活上の困難を乗り越えるプロセス

(2025-77)

研究者: 看護部 副部長 谷 めぐみ

古宮委員長から、関係資料に基づき、迅速審査で承認された申請課題について報告が行われた。

不適合報告について

- (1) 慢性閉塞性肺疾患患者における脳白質病変に関する横断的観察研究

(2021-27)

研究責任者: 呼吸器・アレルギー内科学 講師 山根 真由香

古宮委員長から、関係資料に基づき、不適合の発生について説明が行われ、質疑・応答の後、審議を行い、研究を継続することが承認となった。